

ペロブスカイト・化合物・シリコン ～タンデム型太陽電池の現状と将来展望～

Perovskite, Compounds, and Silicon: Current Status and
Future Prospects of Tandem Solar Cells

開催日時: 9月7日 (日) 10:00～16:15

場所: 名城大学天白キャンパス&オンライン

ショックレー・クワイサー限界を超える高効率を可能にする太陽電池として、タンデム型(多接合型)太陽電池が期待されています。これまでのタンデム型太陽電池は、コストよりも性能が優先される用途に限られてきました。最近では、ペロブスカイトやシリコン、CIS系など、様々な材料の組み合わせによる安価で高性能な民生用タンデム型太陽電池の研究開発が注目されています。本シンポジウムでは、多岐にわたるタンデム型太陽電池の研究開発に取り組まれている専門家をお招きして、タンデム型太陽電池の高効率化や低コスト化に向けた研究開発の現状と将来展望について議論し、分野の垣根を越えた課題共有の機会を提供します。タンデム型太陽電池に興味をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

招待講演者 / 講演題目

山本 憲治 (カネカ)

ペロブスカイト/Siタンデム型太陽電池モジュールの研究開発

石川 亮佑 (東京都市大)

ペロブスカイト/無機半導体系タンデム太陽電池の研究

杉本 広紀 (PXP)

ペロブスカイト/カルコパイライト軽量タンデム太陽電池の開発

芝崎 聡一郎 (東芝)

Cu₂O/Siタンデム型太陽電池

高本 達也 (宮崎大)

III-V族薄膜多接合型太陽電池

牧田 紀久夫 (産総研)

スマートスタックによる異種材料タンデム型太陽電池の開発

若宮 淳志 (京大)

独自の界面構造修飾(双極子戦略)によるオールペロブスカイトタンデム型太陽電池の高性能化

飛田 博美 (JET)

タンデム型ペロブスカイト太陽電池の評価技術

※招待講演に加えて、一般講演のご発表もございます。



企画: 多元系化合物・太陽電池研究会

世話人: 石塚 尚吾 (産総研), 今泉 充 (三条市大), 荒木 秀明 (長岡高専)